

発掘された

河北町の遺跡



令和4年1月18日(火)～1月30日(日) 河北町総合交流センター サハトベに花展示室
ギャラリートーク：1月23日(日) 14:00～14:40

かほくちょう はくつちようさ 河北町の発掘調査

山形県のほぼ中央に位置する河北町、現在旧石器時代から近世にかけて52ヶ所の遺跡が確認されています。現在まで県教育委員会と山形県埋蔵文化財センターによって6遺跡、河北町教育委員会によって5遺跡が発掘調査されています。

町北部にある花ノ木遺跡は縄文時代の遺跡で、工業団地造成工事に伴い発掘調査が行われ、縄文時代晩期(約2000年前)の土器や土偶、小玉等が出土しました。

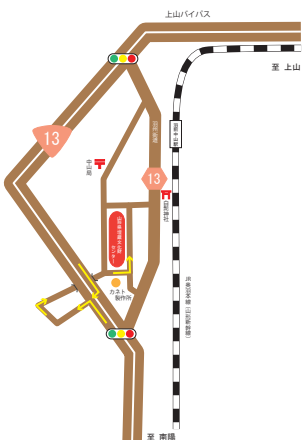
河北町の南部には古墳時代から奈良・平安時代の遺跡が数多く分布しています。下槇遺跡は古墳時代の集落跡が確認され、様々な器種の土師器のほか、子持勾玉や琴柱型石製品など、貴重な遺物が出土しました。

熊野台遺跡では古墳～平安時代の長期にわたる時期の遺構が重複して確認され、土師器・須恵器等の土器が出土しました。

畑中遺跡からは河北町の歴史解明に関わるような古代の墨書土器が数多く出土しました。

展示遺跡

花ノ木遺跡 畑中遺跡 下槇遺跡 熊野台遺跡
不動木遺跡 谷地城跡



公益財団法人
山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷 5608
TEL:023-672-5301 FAX:023-672-5586
HP:<http://www.yamagatamaibun.or.jp>
E-mail:yac@yamagatamaibun.or.jp



ゆるぎ 不動木遺跡

山形県宮園場整備事業に伴い昭和 60 年に発掘調査が行われました。奈良時代後半（8 世紀末）のたてあなじゅうきよあとみぞあと はじ器や須恵器等の大量の土器が出土しました。



やちじょう
谷地城跡

カマドをもつ 竪穴住居跡



溝跡の調査風景

河北町役場新庁舎建設に伴い令和元年に発掘調査が行われました。調査区は谷地城の二の丸に位置し、^{くかくみぞ}区画溝と考えられる複数の溝跡や、^{ほったてばしらたてもん}掘立柱建物を構成する柱穴が数多く確認され、文献上推定されてきた谷地城の存続期間と合致する成果が得られました。



発掘調査区
河北町教育委員会蔵



溝跡（16 世紀中頃～17 世紀前半）
河北町教育委員会蔵